

UHC Day 2018 記念イベント 「誰も取り残されない医療」を目指して

<背景>

世界一長寿で健康的であると言われている日本。その背景には、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）、「全ての人々が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、必要な時に支払い可能な費用で受けられる状態」すなわち「誰も取り残されない医療」がある状態が20世紀後半に達成されたことが要因の一つとして指摘されています。今、世界各国では2030年までのこのUHC達成が大きな目標として掲げられており、各国は様々な取り組みを進めています。

1961年の国民皆保険制度導入以降、提供する医療の質・量ともに充実させることで、UHCをすでに達成した日本から世界に発信できることは多いはず。しかしながら、日本でも少子高齢化の影響や、医療技術の高度化に伴う医療費の高騰、地方での医療職不足など様々な課題を抱えており、今のままでは医療制度の持続可能性が問われています。

また、UHCの目指す大きな目標の中には「誰一人取り残さない」、すなわち経済状況や人種、居住地域などによらず誰もが公平な医療を受けられること、健康格差のない社会を目指すことも謳われています。このようなUHCの理念に照らし合わせた時に、果たして今の日本の医療はUHCを本当に達成していると言えるのでしょうか？

今回は、日本の地域医療の最先端に取り組んでいらっしゃる臨床の現場からの声を聞くほか、タイ・中国からも専門家を招き他国の状況を発表いただくイベントを開催します。タイも一般的にはすでにUHCを達成したと言われていますが、日本と同様に高齢化問題に直面しています。また、中国でも現在UHC達成に向けて政府が取り組みを進めているところですが、未だ都市部と地方での健康格差は非常に大きく、公平な医療には課題が山積しています。

日本、タイ、中国と一見、異なる社会経済状況にある各国ですが、疾病構造や人口動態の変化に医療がどのように対応するのか、都市部と地方部の健康格差や、いわゆる脆弱層（貧困層や外国人移住者等）の抱える健康格差をどのように対応するのか、など抱えている課題には共通するものも多くあります。

本イベントの前半では、各国が「誰も取り残されない医療」を達成・維持するための挑戦を通じて、人々のための医療に必要なものが何かを明らかにします。また、後半のパネルディスカッションでは、とりわけ医療の現場レベルでの活動に焦点を当てることで、日本の地域社会における取り組みの中で、どのようなものが他国にとって参考となりうるのか、「誰も取り残されない医療」の実現に向けて議論を深めていきます。

主催組織

- ・ 東京大学医学系大学院国際保健政策学教室 (GHP)
- ・ 国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター (iGHP)
- ・ 国際協力機構 (JICA)

*本事業は厚生労働省科学研究費補助金事業の一環として開催されます

プログラム案

	はじめに：渋谷 健司 (東京大学医学系大学院国際保健政策学教室教授, 国立国際医療研究センターiGHP センター長)
<u>18:30 – 18:40</u>	開会挨拶：池田 千絵子氏 (厚生労働省大臣官房総括審議官 (国際保健担当))
<u>18:40 – 19:00</u> (20min)	基調講演 Dr. Suwit Wibulpolprasert , Vice Chair, International Health Policy Program Foundation, Health Intervention and Technology Assessment, Thailand
<u>19:00 – 19:30</u> (30min)	第一部:誰も取り残されない医療を達成するためには何が必要か? - 各国の経験から - 司会進行: TBA 1. 19:00 – 19:15 中国 (発表 15分) Presentation: Dr. Kun Tang , Department of Global Health, Peking University School of Public Health <ul style="list-style-type: none"> ● 中国における UHC 達成に向けた取り組み ● 中国の医療制度が現在直面している主な問題点はどのようなものがあるか? ● 一方で、医療をより良いものにするためにトレ

	<p>ンド・好機として捉えられているものにはどのようなものがあるか？（例：テクノロジーの進歩等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中国の経済推進(一带一路構想)による他国の医療への潜在的インパクト <p>2. 19:15 – 19:30 日本 (発表 15 分) 発表者: 高山義浩氏, 沖縄県立中部病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本の医療制度の歴史の中で良かった点及び問題点として残っている点にはどのようなものがあるか（日本の医療制度の中で優れている部分にはどのようなものがあるのか？逆に歴史を振り返った時に、失敗・問題点としてはどのようなものがあるか） ● 日本の医療が現在直面している課題にはどのようなものがあるか？特に、健康格差（都市部と地方、脆弱層（貧困層、外国人等））や高齢化問題について、特に現場レベルでどのように取組まれ、課題と感じるか？
<p>19:30 – 20:00 (30 min)</p>	<p><u>第二部:誰も取り残されない医療を実現するための鍵 – あるべきヘルスケアの姿 -</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - モデレーター:宮田裕章, 国立国際医療研究センター, iGHP, グローバルヘルスシステム・イノベーション研究科長 - パネリスト <ul style="list-style-type: none"> ● Dr. Supakit Sirilak, Deputy Permanent Secretary, Ministry of Public Health, Thailand ● Dr. Kun Tang, Department of Global Health, Peking University School of Public Health ● 高山義浩氏, 沖縄県立中部病院 ● 戸辺誠氏, JICA (国際協力機構) - 討論 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> ● (Dr. Supakit, Dr. Tang) 基調講演及び各国の発表を踏まえた上で、誰も取り残されない医療を実現する際にどのような対象層を意識すべきか？また、その取組み上、どのようなことが主要課題となりうるのか？

	<ul style="list-style-type: none">● (高山先生) 特に沖縄という場所 (いわゆる地方都市で、必ずしも医療資源が潤沢とは言えない場所) で日々臨床に従事している立場から、誰も取り残さない医療のために、地域・現場の取組みを支援するような医療制度とは何か？● (発言者特定なし) 各国が抱える医療の課題の中で自国の経験で共有できそうなものは何か？● (戸辺専門員) 各国の医療制度に詳しい JICA 専門家の立場から、現在、各国が共通して抱えている医療課題を乗り越えるためにどのような国レベル、グローバルレベルでの取組みが役立つか？
--	---